

Dreams Come True

発行：進路担当

進路希望調査を終えて……

今週は、第 1 回の定期テストがあります。先週の金曜日は、たくさんの人が質問教室に来ていましたね。本日の放課後も、質問教室が実施されます。「わからない」を少しでも減らしていけるよう、課題にコツコツと取り組んでがんばっていきましょう。

さて、先日「進路希望調査」を締め切り、集計しました。この機会に、進路についてはじめて考えたという人も多いようですね。今回の調査について、下に少しまとめました。読んでみて、今後の参考にしてください。

① 早く提出し、正しく書けている人が、多くいました！

提出の〆切よりも早めに、また、正しく書けている人が多かったように思います。ただ、特にギリギリに出している人に多かったのですが……

- 記入漏れ（保護者名が抜けている、出席番号が抜けている、など）
- 清書できていない（えんぴつ書きのまま出ている人……なかなか多かったです）
- 間違いがある（「大津」が「大律」になっている、無くなった高校やコースが書かれている）



といったミスが多くありました。人間、ギリギリになればなるほど慌ててしまってミスをしてしまうものです。進路の書類、特に願書については、ミスがあったら受付してもらえません。最悪の場合、受験できなくなってしまいます。そうならないように、特に今回ギリギリに出した人やミスをしてしまった人は、次回以降、早めにていねいに提出ができるように気をつけましょう。

② 「とりあえず」で決めた人が、多いような印象を受けました。

調査を集計したところ、「未定」、あるいは「普通科だけど学校は未定」という人が、かなり少なかったです。それは、とても良いことだと思います。ただ、「とにかく、どこかを書かないと」と考え、友達や親、先生と相談して「とりあえず、ここ」という気持ちで書いている人が、一定数いるように思います。

進路は、自分が進む道です。周りの人のアドバイスはもちろん参考にすべきですが、最後は「自分で」心に決めて、歩いていくものだと思います。

卒業後、進学した高校を辞めて、別の道に進む人は、一定数います。たまに、中学校に相談に来る卒業生もいます。その時に、大切になってくるのが、「自分で決めた道かどうか」というポイントです。

自分で決めただけ合わずに辞めた人は、すぐに次の道を見つけて動くことができます。自分が決めたのだから、と、すぐに割り切れるからです。これが、誰かに言われて決めた道に進んでいる場合は、こうはいきません。「〇〇が言ったから……」と、その人のせいにしたりして、崩れていってしまうことが多くあるのです。

進学・就職は、「ゴール」ではなく、人生の新たなステージの「スタート」です。進学すれば終わりではなく、「うまくいかなかったときに、すぐに次を考えて調整できる」力が、とても大切です。まだ、今の段階では決定しなくてもかまいません。ただ、自分が納得して進路を決定できるように、じっくり向き合って考えることが大切です。体験入学などの機会を活用して、実際に足を運んでみることで、わかることもあると思います。次回の希望調査は夏休み明けの予定ですので、その時までには見通しが持てるようにしていきましょう。

③ 「ここなら行けるだろう」と考えている人がいるようですが……

今年の「希望する理由」のところで多かったのが、「自分の学力に合っているから」とか、「ここなら行けるから」、あるいは「偏差値がちょうどいいから」といったものでした。自分の学力をどう認識しているのかは少し不思議だなあとと思いますが、高校の可否が、そもそもどう決まっているかは知っていますか？

高校の可否の判定は、私立と県立によって異なります。おおむね、以下のように決まっていますので、参考にしてください。

【私立】

「専願」と「併願」がある。県立より先にあるので、「専願」の生徒については合格させたら必ず入学するから人数がはっきりするが、「併願」については、県立の入試の結果しだいだから、どうやって可否を決めるのが難しい。私立高校にも「定員」が決まっており、これは申請して許可されるものだから、勝手に高校の都合で増やしたり減らしたりできない。学校の設備も限られているので、予定より多すぎる生徒が入ってくると、教室が足りなくなってしまう。（実際、合格させすぎてクラス数が増えてしまうと、国や県から指導されてしまうことになる）

そこで、ほとんどの私立高校では、併願の生徒の「戻り率」、つまり、「県立が不合格になり私立高校に入学になる人数の割合」を予測して、慎重に合格のラインを決定しておられます。例年のデータも参考にされますが、特に「その年の県立高校の志望の状況」なども参考にされますので、この合格ラインは年によって大きく前後することになります。私立高校に受験に来る生徒の学力も年によって違うので、「去年の過去問だと合格最低点が〇〇点だったけど、私はそれより少し上の点が取れたから、絶対合格だ。」とは、必ずしも言えない、ということです。



【県立】

全員が「専願」となるので、いわば椅子取りゲームのように決まります。定員を超えて合格させることは、ありません。ですので、いわゆる「定員割れ」となれば、よほどのことがない限り合格となります。

全員の入試の点数と調査書（いわゆる内申）の評価が良い順に、定員いっぱいまで取られるということになりますので、

●その年の定員 ●受けに来た人数（倍率） ●受検している生徒
によって、合格ラインは相当左右することになります。

たとえば、ある高校で「去年はこの時期の実力テストで 300 点の生徒が余裕で合格できたから、今年も大丈夫だ」と考えて受検をしたとしても、その年の倍率が高かったり、受けに来た生徒の学力や成績が高かったりすると、「350 点の生徒でも不合格になってきてしまう」ということは、よく起こることです。

ですので、前の年の点数や成績だけでは、正確な判断ができずに、結果として不合格になることはよくあります。各高校の「偏差値」は、まさに去年までのデータを参考にしているものなので、参考程度にはなりますが、鵜呑みにするのはとても危険なのです。実は、学校の進路指導では、より正確に判定をするために、「偏差値」は使用していません。

上のようなことから、今の段階ではもちろん、受けてみるまで「絶対受かる」「絶対落ちる」などということとは、全くないということです。なので、「ここなら行ける」かどうかは、実際に受けてみないとわかりません。偏差値はあくまで、「もしあなたが去年受けていたら……」という情報なので、参考程度だよ、ということを理解しておきましょう。

また、可否のラインは毎年変わりますが、「今年の生徒は可否のラインが低かったから、そこに合わせて学習のペースを落とそう……」ということは、基本的に行われません。各高校のカリキュラムは、例年と同じように進めていかれますので、「とりあえず受かったら大丈夫」という考え方は危険です。なので、実際に高校に行ってから、ついていけるかどうかを考えて高校を選ぶことが大切です。（ここ数年でも、ギリギリで合格したけど学習のペースについていけずに途中で辞める生徒が、とてもたくさん出てしまっています）できることなら、進学している先輩たちがどう言っているかを聞くと、とても参考になると思います。

加えて、「学力のことしか考えていない」形で進学した人は、その後高校が合わずに辞めてしまうケースが多いです。高校にはそれぞれ、「校風」と言われるものがあります。同じ学力だとされる高校でも、学校の雰囲気や先生方の様子、部活動の特徴や行事など……かなり異なっています。学力面だけでなく、オープンキャンパスなどを利用して、どんな学校なのか実際に体験して考えるようにしましょう。

**「行けるから、行く」のではなく、「行きたいから、行く」。 そんな、進路の実現のために。
友達、先輩、塾、先生、家族……みんな、キミの事を思ってアドバイスをくれます。それは、とてもありがたいこと。
でも、キミの人生は、キミが切り開くもの。納得がいく進路選択を、自分の手で行いましょう。**